

町田市の小山田緑地で行われた、幼児向けのキノコ観察会で見つけた「ビョウタケ（鉾茸）」です。キノコ探しでは、子どもたちの力にいつも驚かされます。子どもは小さなものを見る目がよいうえ、大人よりもずっと視線が低いので、落ち葉の陰や倒木の裏などに生えた小さなキノコを次々と見つけます。このビョウタケも、子どもたちの目にはすぐに飛び込んできたことでしょう。

ビョウタケは、枯れ枝や倒木などの材上に発生する、とても小さなキノコです。子実体は数 mm ほどですが、地味な褐色の落ち葉や枯れ枝の中では、鮮やかな山吹色がひととき目立ちます。初めは小さな粒のようですが、成長すると短い柄の先が円盤状から浅い皿状に開きます。写真にも、まだ丸い幼いものから、すっかり開いたものまで、さまざまな成長段階が写っています。

私は子どもたちに、この姿が木に打ち込む小さな「鉾」に似ていることから、「ビョウタケ（鉾茸）」という名前がついたのだと説明しました。実物を目の前にすると、「なるほど、鉾だ!」と名前と形が結びつきます。質感を「グミみたいだね～」と行った子どももありました。観察会では傘と柄をもつ担子菌のキノコがどうしても多くなりますが、ビョウタケは子囊菌の仲間です。「キノコにはこんな姿のものもある」と紹介できる子囊菌まで見つかったことも、うれしい収穫となりました。

(2026 年 9 月中旬／東京都町田市小山田緑地)

